

山田京子の 議会報告

平成25年第2回定例会
6月25日～7月12日



今議会は熊谷市長2期目初の議会でした。これまで、6月議会では代表質問はありませんでしたが、選挙直後だからこそ市長の基本姿勢を問いたいという議会内の声を受け、会派を代表しての代表質問を行うことになりました。

市長提出議案については市民ネットワークも賛成し、すべて可決されました。

議会改革については「議会のあり方検討協議会」に代わって、新たな「議会改革推進協議会」が設置され、これまで2年間で積み残した課題に取り組むことが決まりました。

「一般質問から」 公民館の将来を考えるのはだれ?

＊社会教育法第20条

公民館は市町村その他一定区域内の住民のために、實際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。

◆公民館運営審議会の

回数を増やし、研修を！
いま、千葉市の公民館は教育委員会直営で、概ね中学校区に1つ、計47館あります。各区の中核公民館には、公民館運営審議会（公民館運営）が設置され、毎年度の事業報告と新年度事業について審議しています。

しかし、開催はたった年2回。かつては研修もあったそうです。が、今は予算もなく、各委員は公民館の法的根拠、目的＊、歴史、他の先進例もわからないまま、会議に参加しています。

国立市では、毎月公運審が開催され、館長が諮問した諸課題を協議したり、公運審からも教育委員会あてに要望書を出すことも多

く、委員の活動がとても活発です。

もっと公運審を活性化するため、千葉市でも最低、公運審を年3回、そして研修を行うことも提案しましたが、「考えていない」との答弁でした。

◆公民館の将来像を

公運審にも問うべき

公民館の将来像に関し、議会では指定管理者制度の導入を考えていると表明しましたが、教育委員会は、いまだに公運審に説明もなく意見も求めていません。公運審には、市民アンケートをとってから聞くとの答弁でしたが、もっと早い段階で、説明と議論の時間をとり、委員に公民館の将来像を問うべきではないでしょうか。

代表質問から

市長マニフェストを問う

「そこそこ都会でそこそこ田舎の魅力を最大限に活かす」について。

若葉区に3か所ある富田・下田・中田の各都市農業交流センターの課題は？

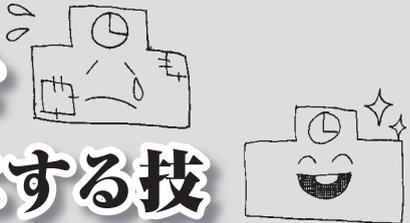
- 富田：芝桜やコスモスの開花時期に多くの来場があるが、四季を通じて多くのみなさまに楽しんでいただけるような工夫が必要。
 - 下田：直売所・レストランの売り上げが停滞。さらなる集客の確保に取り組む。
 - 中田：20平方メートル区画の貸農園の契約率が低い（大きい区画の方が人気）。企業へのPRなど新たな取り組みが必要。
- 3拠点さらに相互に連携しながら地域の魅力を発信する必要がある。

週末に泊まりがけで農村部に野菜を作りにくる都市住民のニーズもあるのでは？宿泊が可能になれば観光レジャー的な農村部の活用の可能性が生まれるのではないかと？

当面日帰り利用が中心になるだろうが、他市に宿泊施設を備えた市民農園の事例もあるので、今後本市でのニーズについてアンケートを実施するなど、さらなる農村部の活性化に向け研究していく。

答弁を受けて：田舎の魅力を引き出すには都市住民のニーズをつかむ必要があり、都市住民が企画に参加する必要があるように思う。地元の方たちだけに任せるのではなく新しい発想を持った人材を登用していくことを求めたい。

廃校校舎を 元気にする技



少子化と共に学校統廃合の問題に揺れる地域は多い。若葉区も例外ではない。学校適正配置地元代表協議会を立ち上げた地区もあるが、愛すべき母校の存続をかけた話し合いはなかなか難しい。堂々巡りの議論から抜け出すには？そのヒントを探しに、廃校校舎をうまく活用している「四谷ひろば」を見学させてもらった。

「四谷ひろば」は、廃校となった新宿区立四谷第四小学校跡地で、「地域ひろば」「東京おもちゃ美術館」「CCAA アートぷらざ」が新宿区と協働で運営している施設である。その中の「地域ひろば」を今回見学させていただいたのだが、ここは思い入れのある学校を大切に思う地域住民の熱い気持ちで作上げた「地域の集いの場」だった。

株式会社の参入やNPOによる事業も展開されている廃校校舎。そんな流れの中で「地域ひろば」が地域住民による自主管理、自主運営という地域協働に拘ったのは「愛する母校を失った悔しさのエネルギー」だったのだそうだ。しかし、これは決してマイナスの感情ではない。自分たちの学校を自分たちの手で守っていきたい、というどこまでも前向きな気持ちだ。「責任を負える範囲でやる」「運営側はボランティアに徹する」など、大切な母校を永く地域で活かして行くためのノウハウには学ぶものが多い。（金田洋子）

富田都市 農業交流 センター見学

6/14

「コミュニティ バスに乗って」

千葉市に移り住んで35年以上になりますが、千葉市内にこれほど豊かな自然が残されていることは驚きでした。おまごバスで交流センターに着くまでの車窓に広がる森や畑の緑。センター敷地の池に羽ばたいていた青鷺の姿に感動しました。

若葉区の豊かな緑は、同じ千葉市とは思えない魅力があります。千葉市民が農業を体験できたり自然に触れられる身近な市内の観光資源として、もっと上手に運営しアピールしてほしいと思います。（例えば、千葉酪農協同組合の売店には、アイスクリームなどをお土産に持ち帰れる包装も用意すると、もっと買い物を増やすことができるのに……）
（鬼塚尚子）

アクセス

- 千葉モノレール千城台駅より「おまごバス」
- 富田町原田池下車徒歩1分
- 富田入り口下車徒歩10分
- 「さらしなバス」
- 富田町①下車徒歩12分

